

給餌のタイミング

～搾乳前後？or 搾乳と搾乳の間？～

「エサ押しの意義」に引き続き、給餌マネジメントに関する話題です。

さて、TMRを給餌するタイミングははたしていつが最適なのでしょう？



2つの大きな採食意欲かきたて要因

1日のなかで牛がおおきく採食意欲をわきたてられる2つのタイミングがあります。

もっとも強力な誘因となるのは

(1) 新鮮なエサを給餌した時

であり、次に強力なのは

(2) パーラー搾乳からの帰り

作業体系の都合上、多くの農場で搾乳の前後に給餌作業がおこなわれることが多いのですが、この2つの強力な採食意欲かきたて誘因を重ねてしまっていないのでしょうか？

給餌タイミングと搾乳時間をかぶせない方が、採食意欲をかきたてるタイミングを増やすことにつながるのではないのでしょうか？

という研究論文があるので紹介します。

Time of Feeding Delivery Affects the Feeding and Lying Patterns of Dairy Cows

T. J. DeVries and M. A. G. von Keyserlingk, 2005

この論文では、1日2回の給餌作業を、搾乳前後でおこなうか、搾乳と搾乳の間（前の搾乳から6時

間後）におこなうか、で牛の採食行動と休息行動にどのような差があるかを検証したものです。

結果は、

☆両群とも採食量は変わらなかった

☆両群とも乳量は変わらなかった

☆両群とも休息時間は変わらなかったが、搾乳と搾乳の間に給餌したグループの方が搾乳後はやめに休息した

☆搾乳と搾乳の間に給餌した方が1日の合計採食時間は13%長かった

というものでした。この結果は、

★搾乳前後に給餌することで2つの強力な採食意欲かきたて誘因を重ねてしまい、搾乳後の餌場での激しい競合がおき、ゆっくり採食できない

★搾乳と搾乳の間に給餌した方が、採食意欲かきたて誘因を分散させることができ、ゆっくりと採食させられる

ということを示しています。

ゆっくりとした採食行動はSARA（亜急性ルーメンアシドーシス）の予防に有効だろうと予想できます。

このことからこの技術は、

- ☞ 過密ぎみの群
- ☞ 初産と経産の混ざっている群
- ☞ 3口ウ牛舎

など、餌場での競合の多い群への応用に使えます



佐竹